

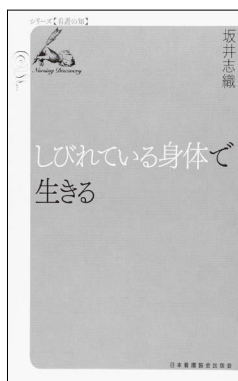
今月の3冊 プラス1



開かれた対話と未来 今この瞬間に他者を思いやる

著：ヤーコ・セイククラ、トム・アーンキル 監訳：斎藤環
発行：医学書院 TEL：03-3817-5650
定価：本体 2700 円＋税

「対話が目的」の対話？「未来を思い出す」対話？ この不思議な設定が、いま対人援助の世界を大きく揺るがせている。フィンランドの創始者 2 人がオープンダイアログの謎を解き、具体的方法を分かりやすく紹介。斎藤環氏による日本語版解説と、すぐに使える「対話実践のガイドライン」も収録。



しびれている身体で生きる

著：坂井志織
発行：日本看護協会出版会 TEL：03-5319-7171
定価：本体 3000 円＋税

その苦悩の大きさにもかかわらず、医療者からの理解が得られにくい「しびれ」の症状。本書では、「しびれ」とは何かを問い直し、現象学的な視点から当事者の経験を記述していく。そして、「しびれている身体」の成り立ちや意味を考察することで、「しびれている身体で生きる」ことの本質に迫っていく。



発達障害のある女の子・女性の支援

「自分らしく生きる」ための「からだ・こころ・関係性」のサポート

編著：川上ちひろ、木谷秀勝
発行：金子書房 TEL：03-3941-0111
定価：本体 2000 円＋税

本書は、発達障害のある女の子・女性が抱える、からだ、こころ、人間関係の問題や課題を解明し、ライフステージ、キーワードごとに事例を示して、専門家による先進的で具体的な支援方法を紹介する。教師だけでなく、医療従事者にも読んでもらいたい 1 冊。

手軽な
+1



喪失学

「ロス後」をどう生きるか？

著：坂口幸弘
発行：光文社 TEL：03-5395-8116
定価：本体 780 円＋税

喪失のない人生はない。家族、友人、ペット、健康、時間、夢、自分の命……。本書は、死別後の悲嘆やグリーフケアを専門とする研究者が、死生学や心理学の理論、当事者の声、実践例を基に、その問いについて考えていく。